

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の④～①のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:43 ②:11 ③:4 ④:0 未回答:0  
74% 19% 7% 0% 0%

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:41 ②:13 ③:2 ④:0 未回答:2  
71% 22% 3% 0% 3%

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

① :28 ②:23 ③:1 ④:0 未回答:6  
48% 40% 2% 0% 10%

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:32 ②:24 ③:1 ④:0 未回答:1  
55% 41% 2% 0% 2%

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:33 ②:20 ③:4 ④:0 未回答:1  
57% 34% 7% 0% 2%

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:42 ②:15 ③:1 ④:0 未回答:0  
72% 26% 2% 0% 0%

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:46 ②:11 ③:1 ④:0 未回答:0  
79% 19% 2% 0% 0%

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:40 ②:13 ③:4 ④:0 未回答:1  
69% 22% 7% 0% 2%

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:28 ②:725 ③:2 ④:0 未回答:3  
48% 43% 3% 0% 5%

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:28 ②:25 ③:4 ④:0 未回答:1  
48% 43% 7% 0% 2%

**B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。**

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 31 (53%)
  - ②学内外の FD 講演会等への参加： 28 (48%)
  - ③他大学の FD 活動の視察： 6 (10%)
  - ④その他： 11 (19%)
    - ・・・「学会参加」4、「他の教員との意見交換」2、
    - 「教授方法の改善の取り組み」2、「非常勤は①~③へ参加する機会が無い」2、
    - 「授業時間後に特に再履習生に授業に対する注意事項を再確認した」
- 未回答： 13 (22%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 33 (57%)
  - ②学内外の FD 講演会等への参加： 36 (62%)
  - ③他大学の FD 活動の視察： 14 (24%)
  - ④その他： 8 (14%)
    - ・・・「学会参加」4、「非常勤は FD 活動に参加しない」2、
    - 「教授方法の改善の取り組みと、より好いテキスト選定」
    - 「教授方法の改善の取り組み」
- 未回答： 12 (21%)

設問 16 前年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答 15 クラス (順不同) :

[1] 授業外での学習を伴わなければ英語力はアップしないということを強調し、復習やトレーニングの仕方を実践指導することに力を入れました。

・・・2 クラス

[2] リピート練習や音読の回数を増やし、英語を口にする機会を増やすよう努めた。

・・・2 クラス

[3] 席の配置を大きく変えた。これまでは、教員対学生で、1 対多の構図だったが、出席をとったあとは、5、6 名のグループを 8 組つくってそのグループで話し合ったり、助け合ったりという雰囲気をつくった。これにより、教員からの質問に答えられない学生をグループのほかの学生が助けることになり、学生がリラックスして授業に望んでいるようだった。その結果、クラスの雰囲気が明るくなったとおもう。

[4] 席をグループになるように配置し、5、6 名の班を 8 つつくり、授業全体をグループ活動としておこなうようにした。英

## 教員 FD 活動レポート（基礎教育）H26 後期 まとめ 英語

語圏の慣習にしたがい、学生の名前をファーストネームで呼ぶようにしている。個人に質問するより、グループに対して質問し、そのグループの誰かが答えるというようにお互いの協力関係を構築するよう促した。

3

[5] 教材が違うので比較は出来ないが、より学生の身近な話題の多く取り上げられている教材で読解力向上に役立つであろうものを選ぶ努力はした。

[6] テキストが同一でないので安易な比較は出来ないが、学生との対話を図りながら授業を進めるよう工夫した。

[7] 個別プレゼンでは、受けを狙って逆に英語を使わない学生が出るがあったため、プレゼンテーション形式ではなく動画を作成させることにした。ビデオが1台しかないのが難点で、数台あればうまく回転できたと思う。

[8] 学生の反応を見ながら授業の進行速度を調整した。

[9] できるだけフィードバックをうまくしようとした。

[10] 今年度は学生の英語力に合わせ、日本語訳付きのワークシートを作成した。

[11] 説明を工夫した。

[12] H26 年度が、はじめての授業でした。

[13] パソコンを授業中に使用しなかった為、プリントで対応した。TOEIC のクラスだが、機会があるなら、もっとペアワークで対話の時間を増やしたい。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 25 クラス（順不同）：

[1] 教室内の無線 LAN がうまく機能していない。何とか環境を整えてもらいたい。

・・・2 クラス

[2] シラバスの予定が大幅に狂った原因は、教室内の無線 LAN が思うように効かなかったためである。WebClass 上に教材を用意したが、全員が同時アクセスすることができず、90 分経っても一度も内容が表示されない学生が 1/4 にも上った。急ぎょ大幅に内容変更せざるを得なかったばかりか、予定が 2 週間も遅れることになった。

無線 LAN については、何とか環境を整えてもらいたい。

・・・2 クラス

[3] TOEIC の必要性、目標スコアを学生に常にリマインドし、単調になりがちな演習の中で、モチベーションを維持させるような工夫が必要である。

・・・2 クラス

[4] 良かった点：テキストが、大学生の知的レベルに対応したもので、深い思考を促すものであったとおもう。自分一人で読んでいただけでは面白さのわからない話を、グループ活動により、より深く読むことができるよう配慮した。また、家庭学習を促すなど、学生の自主性を尊重することができた。

反省点：英語をよむための時間が限られてしまい、読むスピードがあがらなかった。また、文法の説明をもっときちんとしてほしい。

[5] 良かった点：テキストは、学生の関心にあっていたとおもう。スピーチ用のテキストは CD もついており、本人のやる気に応じて家庭学習が可能である。

英語圏の慣習にしたがい、学生の名前をファーストネームで呼ぶようにしている。

個人に質問するより、グループに対して質問し、そのグループの誰かが答えるというようにお互いの協力関係を構築するよう促した。

反省点：映画のテキストについては、質問に対する答えをもっとわかりやすく伝えるべきだった。（板書するなど）

[6] グループ活動を活発にと考えていたが、あまりうまくできなかった。グループ活動しやすい課題を考えて豊かな授業に

したい。

[7] 学生が楽しく参加できる授業になったと思う。プレゼンテーションも7回行ったが、皆とても上手になっていった。添削がとても大変だったが、今は良かったと満足している。

[8] 今後は、もう少しグループでの活動が活発になるような授業展開の工夫、学生同士がもっと英語を使って活動できる授業展開を図っていきたい。

[9] 以下の項目で述べるように今年度は前期後期とも Eb クラスでは「コミュニケーション能力の育成」に努めたが、英語で自分の考えを纏めて話したり書いたりする為には学生の現在の英語力では不十分で、中々突っ込んだ議論は出来なかった（巡回しても日本語で話していたり、英語でも文法無視の単語レベルの遣り取りが殆どだった）。語彙や文法や発音等、言語としての英語の習得状況が大学1年生では未だ未だ未熟なので、致し方ないものの、基礎力増強も同時に図って行かないと、語学科目においては英語であっても全体的に見て未だアクティブラーニングがアクティブに出来る状況ではないと云わざるを得ない。

[10] グループでプレゼンテーションさせたが、発表者側の英語力は向上したが、他のグループのプレゼンテーションを理解するのがやや困難な場合があったので、聞く側の理解を高める工夫をしていきたい。

[11] とても明るく、積極的な学生が多かったので授業が楽しくできました。

教科書だけでなく、Internet 等の情報も入れていきかけた。

[12] 学生の予習状況に合わせて授業の流れを変更していましたが、「予習したうえでの授業」という一貫した姿勢を貫くべきだったと反省しています。

[13] 後期のみ担当の学生だったので、前期にある程度の学習習慣がついていることを前提にした授業の構成を試みた。新聞記事をメインの題材とすることで、教育・文化・経済・社会などの時事関連話題を多読し、それを基にさまざまな形での発表に持っていくことができたと思う。非常に能動的なクラスになったと思う。

[14] リスニング教材を用いもっとリスニング時間を増やすべきだった。

理解力の不十分な学生に、もっと個別に指導するべきだった。

学生の発話時間をもっと持たせるべきだった。

[15] I would reconsider the difficulty of some of the speaking tasks in the future and try to better gauge what level the students' proficiency is.

[16] テキストを離れ、最新時事問題を扱う新聞記事を主題材としたことで、学生の食いつきが良かったこと。読み・話す・書くの分野で多量に英文を扱うことが可能だったこと。

[17] 毎回、英字新聞や Time から記事を抜粋したものを Reading として使用しながら、TOEIC の技的対策に偏らないよう配慮した。

[18] 他のクラスを参観する事で、自分の授業をふりかえる事ができた。

次の機会があるなら、もっと学生が充実感をあじわえる授業にしたい。(写真や絵を使ったりして)

[19] 工学部と一口に言っても色々な学科があるため、工学部用のテキストでも関心、意欲を高めようとしてもなかなか難しいと思った。

[20] 英語でスピーチする積極性を養うという目標は、全員が達成しましたが、正確な発話練習を前期のうちにもっと徹底しておくべきでした。

[21] 大学人としてのミニマルエッセシャルの英語力をつけようと努力した。

[22] 学生のレベルが大きく違うので、どこまで合わせるべきか苦慮した。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

**C (問 19～21) : 中期目標・中期計画の関連で「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

設問 19 授業の中で「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 40 (69%)      ②いいえ： 4 (7%)      未回答： 14 (24%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 28 (48%)  
 ②読んで理解する： 33 (57%)  
 ③自分の考えをまとめて話す： 26 (45%)  
 ④自分の考えを文章にまとめる： 20 (34%)  
 ⑤討論する： 7 (12%)  
 ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 12 (21%)  
 ⑦その他： 1 (2%)      ・・・・「グループで課題を達成する」1  
 未回答： 18 (31%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 23 クラス（順不同）：

[1] 日本語から英語に直すのではなく、言いたいことを既存の英文から拾ってきて加工する手法を教えた。一から英訳させると大変幼稚な英語表現になることが悩みの種だったが、英「借」文をすることで、文法的に完成度の高い文章を作ることができた。

・・・ 2 クラス

特に、

最終的な 300 語の英語エッセー・・・ほとんどの学生が書くことができた。

最終的なグループプレゼンテーション・・・聞き苦しくない英語を話すことができていた。

[2] 自らが選出した英文記事を読解し、分かり易くクラスに伝える。

・・・ 2 クラス

[3] 話す、聞く、読む、書く、プレゼンテーション全ての活動を取り入れた授業ができた。

[4] 聞く、話す、読む、書く、プレゼンテーションの練習を毎回入れている。

プレゼンテーションは 1 年に 7 回行った。一般的なテーマから専門的なテーマまで難易度を上げていった。

[5] 毎回 A3 程度の記事を学習、予習前提、授業中は極力遊びの時間が出ないよう、グループワーク、ペアワークを駆使して音声重視の授業を実施。書く作業は自己学習とし、講師が添削する形をとる。

[6] 毎回 A3 サイズ程の量の内容を学習する。自宅での予習を必須とし授業は発表の場、ペアワーク・グループワークを中心に目一杯読んで喋る活動に時間を割いた。講師対学生（一人ずつ）のスピーキングチェックやクラス内での発表も取り入れる。

[7] 興味を引くように、学生が日常的に使う日本語を英語で説明することに取り組んだ。グループワーク形式でほとんどのグループが大変うまく機能していたが、中にうまくいかなかったグループがあった。グループ活動する際の配慮についてもっと研究したい。

[8] 興味を引くように、学生が日常的に使う日本語を英語で説明することに取り組んだ。グループワーク形式でほとんどのグループが大変うまく機能していたが、中には途中で脱落する者が多いグループがあり、再編成をしなければならなかった。グ

グループ活動する際の運営についてもっと研究したい。

[9] 席をグループになるように配置し、5, 6名の班を8つ作り、授業全体をグループ活動としておこなうようにした。

英語圏の慣習にしたがい、学生の名前をファーストネームで呼ぶようにしている。

個人に質問するより、グループに対して質問し、そのグループの誰かが答えるというようにお互いの協力関係を構築するよう促した。

[10] ある話題につき、発表者は予定表に従っているが、その発表へのコメントをほかの学生にさせている。そうすることにより、学生同士のコミュニケーションが可能となっている。

席をグループに分けることで、学生同士のコミュニケーションをとりやすくした。

英語圏の文化に倣い、学生をファーストネームで呼ぶようにしている。

[11] 毎回授業の冒頭に4人グループで1分間スピーチを実施。授業の雰囲気作りと遅刻の学生に対する時間調整の為。

[12] この科目では、教員も出来るだけ英語で授業を行ない、グループでの英語でのディスカッションを取り入れて自分の考えを纏めたり表現したりさせた。前学期はビデオ教材を用いて、内容も学校での出来事を取り扱った映画を鑑賞してから本文を文字で確認し、内容についてグループで討論するよう仕向けたが、後期は様々な話題に関する短いエッセイを読み、語彙と内容の概要(Outline)を確認する作業を経た後、当該エッセイに関する幾つかの英問に答える形でグループディスカッションをさせた。

[13] Cooperative Learning Groups の理論を応用した授業を展開した。

[14] I gave them the opportunity to speak English as much as possible, focusing on spoken output generated from conceptualizing higher-order thinking tasks.

[15] 最後のプレゼンは、内容がバラエティに富んでいたのが楽しくきけた。また、発表後質問をする学生もいて頼もしさを感じた。

[16] 最後のプレゼンでは内容が様々で楽しめた。単語レベルも高いように感じた。

[17] 英文を読み取り、その内容について班員に言葉で伝える活動や再話 (retelling) の活動を取り入れた。

[18] ペアワークで読みの確認、訳出をさせた。

CDに合わせて、パラレルリーディングで音声の重視に努めた。

[19] TOEIC のクラスでしたが、短文レベルでもリスニングカに少し問題のある学生が多かったので、できるだけ例文を音読させた。(ペアワークで)

[20] TOEIC の学習ではあったが、復習箇所のペアワークや復習としてのリスニング演習の強化等、音声面を重視した。

[21] 英語をもちいて論理的に記述する、順序よく説明する、物事を比較する、というテーマで授業を行った。物事をとらえる視点、観点を重視したコミュニケーション能力の育成に努めた。

D (問 22~25) : 中期目標・中期計画の関連で「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業の中で「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 4 (7%)                      ②いいえ： 31 (53%)                      未回答： 23 (40%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 授業中で取り上げるおよその回数を選んでください。

① 1～5 回： 4 (7%)                      ② 6～10 回： 0 (0%)                      ③ 11～15 回： 0 (0%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 3 (5%)                      ②政治・経済・産業： 3 (5%)                      ③自然環境・フィールド体験： 3 (5%)  
④その他： 0 (0%)                      未回答： 54 (93%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス（順不同）：

[1] プレゼンテーションで「故郷自慢」をテーマにして英作文、発表をさせた。皆、皆一生懸命、色々調べて良い発表（中身のある発表）ができていた。

・・・2 クラス

[2] I included materials about the region of Miyazaki regarding historical and cultural points of interest that all students would know and could share as output.